

## 世界中の花

M・T

この世のすべての花には、固有の美しさがあるのだろうか。

「あなたの花を豊かに咲かせてください」との言葉をもらったことがある。人を花に例えることはできるのだろうか。

私は小学生の時、自分がどんな人間かなんて考えず、自由に振る舞っていた。中学生になり、自分が地味で面白い話もできないことに、ひどく落ち込み始めた。明るく華やかな女の子とは、何もかもが違った。

明るさや華やかさは、人目を引き、高く評価される。世間では、褒めたたえられる種類の花がある。私も、周囲の視線を敏感に感じ取って、自信を喪失していった。

自分に自信を持ってないと、心がぎゅっと苦しいし、硬くなる。常にびくびくと緊張し、毎日を楽しめない。

自己否定しかできない時、人を羨むばかりだった。自分に少しでも良い所があると思えた時、心が解放され、楽になった。自己否定の視点から自分を見つめると、何をしても、何が起こっても、自分嫌いは強化された。

今の私はこれでいいと安心できることは、大切だと思う。心身リラックスして、ゆったりとした心持ちでいられるのは幸せだ。

愛する、思いやる、気遣う、誠実である、正直に伝える、情熱、夢、希望を持つ、地道に役割を果たす、思いつきり遊ぶ、笑顔でいる・・・心の底から湧き上がる美しい気持ちによって行動できた時、その人らしい花が精一杯咲いているのではないだろうか。誰にも気付かれず、評価されなかったとしても。

人の個性は皆違う。例えば、秘められた優しさの種類は、千差万別だ。対象が誰で何なのか、熱いのか、静かなのか、外から分かりやすいのか、分かりにくいのか。

全般的な知性や能力も、絶対にテストで測りきれない、独自性があるはずだ。

人と比べても仕方がないのだ。人は皆、自分の条件で生きなければならぬ。つつましい花であってもいい。ささやかな幸せを謳歌する花でありたい。

私の好きな花を一つ選ぶとすれば、チューリップだ。大きくて、目立つ花でもある。色彩が明るく、陽気な姿で、可愛いらしい。

私は花々の美しさにもっと気付きたい。それぞれの人、花が持っている美点を認め合って、差別してしまわないで、皆が安心して咲き誇れる社会であつたらいいと思う。